

授業計画表							
教科名	社会保険						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	山口 孝[無]						

[illegible]

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通して授業の進め方)	・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験（運営管理）
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）
テキスト及び参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	理容実習						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	13 (390時間)
担当教員 (実務経験の有無)	池山英一〔有〕 稲嶋拓也〔有〕 磯部 臣史〔有〕 ヘアサロンにて9年スタイリストして勤務 神谷貴之〔有〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～3	1章 スタンダードヘア① 基本姿勢、用具の持ち方と操作	初めてのウィッグの取り扱い、用具の取り扱いや技術を行う際の姿勢について学ぶ。
4～35	ワインディング用ウィッグのカット	ワインディング技術を行うための、準備。ワインディング用のウィッグを全部長さをそろえてカットしていく。
35～42	ワインディング①	1 2 ブロッキング、ロッドの巻き方を学ぶ。
43～57	ワインディング②	センターのブロッキング、ロッド配置を理解し、ある程度コンスタントに負けるようにする。
57～70	ワインディング③	センターに合わせて、サイドのロッド配置、巻き方を学ぶ。
71～85	ワインディング④	全頭を巻けるようにし、大会に向けてタイム測定（40分）を行いながら、技術の向上をさせる。各自、時間配分を身につけさせる。
86～92	1章 スタンダードヘア②	理容の基本ヘア（ミディアムヘア、ブロー）について、カットの仕方、技術姿勢を学ぶ。
93～106	2章 デザインヘア①	デザインヘアカットの用具の持ち方、カットの仕方の基本的なことを学ぶ。
107～120	2章 デザインヘア②	ワンレングス、グラデーション、レイヤー、スクエアなど、実際のカットの基礎技術を学ぶ。また、ブラントカット、ストロークカット、チョップカット、レザーカット等の技法について理解させる。
121～124	7章 シェービング① フェイシャルトリートメント	シェービング後の、顔面処置（てん包法、清拭法、クリームマッサージ、クリームふき取り）を、国家試験の手順に沿って学ぶ。
125～139	7章 シェービング② メンズフェイスシェービング	フェイスシェービングの基本技術について学ぶ。 運行順序をきちんと学び、国家試験の手順を身につけさせる。
140～153	7章 シェービング③ メンズネックシェービング	ネックシェービングについて、国家試験の手順に沿って基本技術を学ぶ。
154～254	7章 シェービング④ メンズシェービングまとめ	国家試験の手順に沿った、顔面処置が身についたか、確認・復習をする。
255～276	7章 シェービング⑤ レディースシェービング スキンケア	レディースシェービング、スキンケアについての基本技術について、メンズシェービングとの違いに注意しながら学ぶ。
277～284	8章 ネイルケア 9章 フットケア	ハンド、フットの簡単なケアについて学ぶ。
285～288	8章 ハンド&アームマッサージ	相モデルを通して、ハンドマッサージの基本的な技術を学ぶ。
289～324	クラシカルカットとセット①	2年次の大会に向けて、クラシカルセットの為のカットを行う。 合わせて、クラシカルボンバージュセットについて基本的なドライヤーセットの技術を学ぶ。
324～390	ワインディング⑤	2年次の大会に向けて、技術の向上をさせる。 タイム測定30分で、Cカールワインディングとする。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身に着けると共に、 これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人できるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に、基本的な姿勢、技術
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 必要に応じて、小テストを行います。 定期試験は、60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティー専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 (実務経験の有無)	磯部臣史〔有〕 神谷貴之〔有〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1+88:24	序章 理容技術を学ぶにあたって	効率よく技術を習得するために技術理論を学ぶことを理解する
2～4	第1章理容技術の基礎①	人体各部の名称について、人の頭部顔部を施術する理容技術のため名称を正しく学ぶ
5～7	理容技術の基礎②③	理容技術における技術姿勢について、安全で正確な技術を行うために正しく理解する
8～11	第2章理容用具①②③	理容用具について、基礎的な知識を学び衛生的な取り扱いや物を切る原理を学ぶ
12～16	理容用具④⑤⑥	シザーズ、レザー、クリッパーという理容の主になる用具について名称から機能まで学ぶ
17～24	理容用具⑦⑧⑨⑩⑪	コームやブラシなどそれぞれの名称から機能までを学ぶ
25～32	第8章シェービング①②③	理容の主要な技術であるシェービングについて、特に皮膚とひげのことを十分理解する
33～38	シェービング④⑤	シェービングの基本技術と要領についてレザーの扱い方操作の原理など十分に理解する
39～43	シェービング⑥⑦⑧	国家試験技術にもあるメンズシェービングについて技術的な観点から理論的に学ぶ
44, 45	シェービング⑨	レディースシェービングについて女性の繊細な肌に効果的に技術を行うための知識を理解する
46, 47	第9章理容エステティック①②	エステティック本来の目的が人間の内面的部分まで及ぶ総合的なものであることを学ぶ
48, 49	理容エステティック③	国家試験技術にもあるフェイシャルケアについて技術的観点から理論を学ぶ
50～54	理容エステティック④⑤⑥	ネイルなどのハンドケアやフットケアなどエステティック分野にある心地よさが伝わる技術を学ぶ
55～59	第12章理容マッサージ①②③④	理容で行うマッサージについて理解し手技を学ぶ
60～64	第3章ヘアデザイン①②③	技術と同時に必要なヘアデザインについて造形の原理や条件を学ぶ
65～70	第4章カッティング①②③	ヘアスタイルを実際に作る手段として髪を切る技術であるカッティングについて理解する
71～80	カッティング④⑤⑥⑦⑧	カッティングの基本的な条件や原理について学びスタンダードヘアのスタイルを学ぶ
81～90	カッティング⑨⑩⑪⑫	デザインヘアを作るための基本原則や考え方を学ぶ

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容総合理論【接遇】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	服部緑子[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	第1章 基本のマナー社会人としての心構え①	マナーの基本、企業がマナーを重視する理由。学生と社会人の違いについて学ぶ。原点回帰より接客業として大切な事への気づきと必要性を理解する。
2, 3	基本のマナー第一印象の5原則②③	表情・挨拶・身だしなみ・立ち振る舞い・言葉遣いについて、講師が手本を見せ基本動作を学ぶ。演習を通し日常を振り返り気づきと必要性を理解する。
4～6	第2章 ビジネス会話のマナー ①②③	ビジネスシーンの正しい言葉遣い敬語、謙譲語、クッション言葉の基本を学ぶ。練習問題を継続して実践し理解を深める。
7	ビジネス会話のマナー ④	話し方、聴き方の基本を学ぶ。相手に伝わる効果的な会話をする為のテクニックと傾聴姿勢の基本について演習を通し体感することで理解を深める。
8～10	第3章 コミュニケーションツールの活用 電話対応の基本・携帯電話 F A X メール①②③	各ツールの特徴とメリットやデメリットを学び適切な連絡手段を学ぶ。実践を通し電話での対応の基本を学ぶ。
11	定期試験の答え合わせ 接遇実技試験対策 ①	定期試験答え合わせ。接遇マナー実技試験の内容を伝える。
12	接遇実技試験対策 ②	「5年後の私」をテーマに1分間スピーチを作成し実践を通して話し方、声の出し方、姿勢を学ぶ。
13, 14	接遇実技試験対策 ③④	理・美容師アシスタントとしての接遇・マナースキルの確認。第一印象を高める挨拶・表情・整容・立ち振る舞い・言葉遣い・整容についての総合テスト対策。
15, 16	第4章 ビジネス文書について ①②	ビジネス文書の種類と基本を学ぶ。面接後の「お礼状」を実際に作成し手紙・封書の書き方の基本を学ぶ。
17, 18	第5章 来客対応と訪問のマナー	来客対応の基本を学ぶ（お出迎え、ご案内、席次、名刺交換、お茶出し、お会計、お見送り）接客会場別に演習を通し習得する。
19	定期試験の答え合わせ 接遇試験対策 ⑤	定期試験の答え合わせ。接遇マナー実技試験内容再確認。
20～23	接遇実技試験 ⑥⑦⑧⑨	理・美容室でアシスタントとして必要な接客サービス能力：挨拶、表情、姿勢、態度、言葉遣い、立ち方、歩き方、話し方、座り方、話す内容を含む実技試験を60点以上合格とする。
24～26	就職活動対策 ①②③	履歴書の書き方の実践とリアルでの面接対策、入室から退室までの演習を通して学ぶ。
27	就職活動対策 ④	就職活動対策、オンラインでの面接対策、入室から退室の対応の基本とオンラインならではの注意ポイントを学ぶ。
28	第6章 食事のマナー	テーブルマナーの基礎知識。西洋料理、日本料理のマナーの基本を学ぶ。懐紙の使い方、正しい箸の使い方等演習を通して学ぶ。
29	第7章 冠婚葬祭	冠婚葬祭の基本を学ぶ。
30	定期試験の答え合わせ まとめ	定期試験の答え合わせ。 総合まとめ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につける。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②演習を通し基本の形を学びます。 応対される側（お客様）と応対する側（スタッフ）の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①就職活動及び理容室の現場に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接客検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアーレ接客検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NP0法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

- ①専門学校に対する教育・指導歴
- ②企業・福祉施設の依頼による社内教育・研修

授業計画表							
教科名	理容総合理論【色彩】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	榎本 祐美子〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	今後の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけるとともに「自分の色」をみつけてもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	・ 定期試験 ・ 授業の出欠状況 ・ 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします
資格対応	パーソナルカラリスト検定 3級 （希望者のみ2級）
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	日本カラリスト協会、パーソナルカラリスト検定3級公式テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

授業計画表							
教科名	理容総合理論【他】						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 （実務経験の有無）	磯部臣史〔有〕 神谷貴之〔有〕						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表							
教科名	理容総合技術						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	3（90時間）
担当教員 （実務経験の有無）	磯部臣史〔有〕 神谷貴之〔有〕						

[illegible]

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。	
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。	
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ	
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。	
資格対応		
関連科目	理容実習、理容技術理論	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容モード理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数式的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等描いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界5大コレクション・ブランド名・洋服の名称（1）等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称（2）テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

--	--	--

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品物提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	香粧品化学						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 (実務経験の有無)	恒川 幸伸[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験
の有無について

名古屋市立中学校において理科を指導。

授業計画表							
教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	堀江 忠史[有]						

[illegible]

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ ④課題プリントの提出の有無
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。 指名された時に明快な発言をしてもらいます。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2（60時間）
担当教員 (実務経験の有無)	中山武[有]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1・2	保健を学ぶにあたって	保険と健康の意味を学ぶ
3～10	第1章 頭部・顔部の解剖学	当尾部・顔部の名称、眼の周辺、鼻・口の周辺の名称
11～13	第2章 骨格系	骨の構造と名称を学ぶ。
14～16	第3章 筋系	筋の種類と名称を学ぶ。
17～20	第4章 神経系	脳と脊髄、自律神経を学ぶ。
21～23	第5章 感覚系	5つの感覚と、その他の感覚を学ぶ。
24～28	第6章 血液・循環系	血液の内容と心臓を理解する
29～31	第7章 呼吸器系	気道とガス交換・肺を学ぶ。
32～36	第8章 消化器系	消化管・肝臓・膵臓を理解する。
37～42	1章 皮膚の構造①	皮膚の断面・表皮の角化細胞を理解する。
43～46	皮膚の構造②	真皮と皮下組織を理解する。
47～50	2章 皮膚の付属機関①	毛の構造と性情を学ぶ。
51	皮膚の付属機関②	立毛筋を学ぶ。
52～55	皮膚の付属機関③	脂腺と汗腺を理解する。
56	皮膚の付属機関④	爪を学ぶ。
57	3章 皮膚の循環器系と神経①	皮膚の血管を学ぶ。
58	皮膚の循環器系と神経②	皮膚のリンパを学ぶ。
59・60	皮膚の循環器系と神経②	皮膚の神経を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて 現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- 〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- 〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- 〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- 〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 （実務経験の有無）	中山 武[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1	公衆衛生の意義と課題	公衆衛生の定義を理解する。
2・3	歴史と消毒法の歴史	古代から中世現在への流れを理解する。
4・5	保健所と理容業	保健所の役割を理解する。
6	母子保健	出生数・乳児死亡率を学ぶ。
7・8	成人・高齢者保健	死亡率・平均寿命・死亡原因を学ぶ。
9～11	生活習慣病	がん、心臓病、糖尿病について学ぶ。
12・13	環境の存在	環境の種類を理解する。
14・15	空気環境と温度	空気成分と有害物質を学ぶ。
16～19	衣服住居の衛生	衣服、住居衛生、採光・換気を理解する。
20～23	上水道・下水道	上水のでき方、下水処理の方法を学ぶ。
24・25	廃棄物	ごみ処理、産業廃棄物の処理方法を理解する。
26～28	衛生害虫とネズミ	ハエ・カ・ゴキブリ・シラミの生態と感染症を学ぶ。
29	人獣共通感染症	ペスト、狂犬病を学ぶ。
30	環境保全	水質汚濁を学ぶ。

--	--	--

教育目標 ねらい (到達目標)	自分自身の身近な環境と衛生、地域とのつながりにおける衛生を知る
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	公衆衛生の歴史から、環境について
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	関係法規・制度						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1（30時間）
担当教員 〔実務経験の有無〕	山口 孝〔無〕						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構
9～10	理容師法	理容師法の目的と歴史・理容師法の構成
11～12	用語の定義	理容・理容師・理容所
13～14	理容師	理容師養成施設・理容師試験・免許と登録
15～16	理容師	管理理容師・業務に従事する理容師の義務
17～18	理容所	理容所の開設
19～20	理容所	理容所開設者が講ずべき衛生措置・理容所以外での業務
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・意義申立て
25～26	罰則	罰則
27～28	関係法規	生衛法・地域保健法・感染症
29～30	関係法規	労働基準法・消費者基本法・廃棄物処理法・理容師法の課題

教育目標 (到達目標)	理容師・理容所に関連する法規を理解させることによって、理容師・理容所開設者が持つべき社会的責任の重さを学生に認識させ、さらに、責任を持って理容の業を実践していくことが社会貢献であるとしてその職業意識を育成していくことを目的とする。重点項目として、理（美）容師法、生活衛生関係営業の運営の適正化及び振興に関する法律、・保健所の役割、・衛生行政、・政策金融の意義と仕組み、・消費者保護の仕組み	
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1章「法制度の概要」 道徳慣習などの社会生活に身近な社会規範から、法の内容、憲法など法律の種類および衛生法規。 第2章「衛生行政の概要」 衛生行政の意義・歴史、衛生行政の種類、厚生労働省の機構、保健所の役割。 第3章「理容師法・美容師法」 理容師法の歴史、現在の理容師法の体系、理容師/理容所の法律上の定義、理容師の資格関連法規、理容所業務関連法規、環境衛生監視員の立入検査や違反者等に対する行政処分・罰則。 第4章「関連法規」 生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、その他、独立経営に際して必要となる諸法規、地域保健や感染症関連の法規等。	
評価方法	法律に関心を持って学習しようとしているか、法律一般について意欲的に理解しようとしているか等を評価します。また法律関連の事柄から課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察しているかどうか、さらに学習を通じて思考力や判断力が身に付いているかどうか等評価します。テスト法を中心として評価し、各学期1回定期試験を実施、100点満点中60点を合格とします。	
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアービューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。	
資格対応	理容師国家試験	
関連科目	「衛生管理」第1編 第1章 公衆衛生の概要、第2編 第1章 環境衛生、第2章 理容所・美容所の環境衛生、第3編 第1章 感染症の総論、第2章 理容・美容と感染症、第4編 第1章 消毒法総論、第2章 消毒法各論、第3章 消毒法実習	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「関係法規・制度」テキスト	

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

〔Sレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

〔Aレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

〔Bレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

〔Cレベル〕 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 (実務経験の有無)	山口 孝[無]						

授業計画（授業の方法及び内容）		
回	項目	内容
1～2	経営とは何か 経営者の責任 目的 (経営戦略)	・ 総人口の推移、・ 若年、生産、老年3区分による将来人口推計
3～4	理・美容業の経営環境（社会の変化・競争）	・ 人口の減少と構造変化が理・美容業に及ぼす影響と対応策
5～6	理・美容業の経営環境（競争の未来図、理・美容業の顧客）	・ 理、美容所及び従業者の動向と課題
7～8	資金の管理（収益と損益、会計の考え方）	・ 収支と損益、・ 貸借対照表とその意義、・ 損益計算書とその意義
9～10	資金の管理（コスト管理・税金）	・ 個人経営、法人経営別税金の種類と納付時期、・ 税に関する罰則、・ 青色申告制度
11～12	社会保険（公的年金）	・ 国民皆年金制度、・ 制度別被保険者と財源負担、・ 制度別給付の概要
13～14	社会保険（医療保険）	・ 国民皆保険制度、・ 制度別保険者と被保険者、・ 医療費一部負担金の割合、・ 現金給付の概要
15～16	社会保険（労働保険）	・ 雇用保険・労災保険の目的、・ 被保険者と財源負担、・ 給付制度の概要
17～18	労働関係法規（労働基準法）	・ 労働条件の原則、・ 労働時間 休憩 休日 年次有給休暇等
19	労働関係法規（労働安全衛生法）	・ 労働安全衛生法の目的、・ 健康管理の仕組み、・ 健康診断
20～21	労働関係法規（待遇・福利厚生）	・ 法定福利、所定福利ほか
22	人という資源	人という資源とは・人の能力を高める・人をやる気にさせるために
23	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・理容の仕事と健康・理容業に特徴的な健康課題
24	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・顧客が求める価値・価値の実態
25	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・最も重要な価値「人」・価値の多様性 顧客が求めるもの
26	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・理容業のマーケティング・マーケティングミックス
27	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因（短期・長期）
28	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ミックスの要因（長期）・サービスのシステム化・接客についての理解
29	サービスにおける人の役割	よい接客のために・接客の実践①②③④⑤

30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処
----	--------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ ②人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ ③顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	理容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--